

令和3年度 『社会福祉法人昴会』 事業報告書

1. 令和3年度の重点課題からの振り返り

(1) 利用者の人権擁護・虐待の防止の取り組み・支援や関わりの質を高める

今年度も、各施設・事業所で虐待防止に向けた取り組みを実施してきた。また法人の取り組みとしても、「障害者虐待防止の更なる推進」及び「身体拘束等の適正化の推進」に向けた委員会・責任者の設置等や運営規程の見直し・指針の策定等を整備した。

四季の郷では、主任者会・QOL向上委員会を中心に利用者への関わり方や介助方法の確認・検討を行うと同時に、外部講師を招き人権擁護や虐待予防に関する内部研修を実施した。第一・第二・第三大山荘では毎月のケア会議の場を利用して支援の確認・検討の実施、細江あすなろ作業所、大山ファーム、アグリッシュ西丘では、内部研修を通して人権擁護・虐待防止の意識の向上に努めてきた。新型コロナウイルス感染拡大を受け、法人虐待防止委員会の実施は見合わせ、各施設・事業所の状況に合わせた具体的な取り組みを行った。

また12月に聖隷クリストファー大学の介護福祉管理論授業の一環として、社会福祉学部介護福祉学科3年生の学生達による模擬第三者評価を受けました。評価に向けた準備や結果報告等のやり取りを通して、法人や事業所における評価(強み)を再認識できたこと、今後の福祉サービスの質の向上、さらには第三者評価本番に向けた課題が整理できたことは、当法人にとっても大変収穫の多い機会となりました。

(2) 専門性を高めるための機会の充実

今年度は、コロナ感染予防としてウェブで計画・企画する外部研修が増えたことで参加が容易となりましたが、グループワークなど対面実施が望まれる研修テーマについては、依然として難しい状況があった。また、各施設・事業所単位で実施する研修の機会については、確実に持つように取り組んできた。

法人内の課題としては、感染対策のため多人数や事業所間で実施する会議・研修・行事等の機会がなかなか設けられなかったことで、職員交流や支援・活動の取組みに触れる機会＝刺激が少なかったことが挙げられる。コロナ禍で様々な制約が設けられ閉塞感のある状況だからこそ、組織や職員個人において主体的に目標管理を設定することの意義があるように感じており、専門性や意欲を高めるための仕組みや定期的なスーパービジョン等の機会を設けていく必要がある。

(3) 安定的な事業運営のため、職員人材の確保への取り組みを強化する

今年度も、年間を通して市社協人材バンク登録や説明会への参加、ハローワークを通じた求人活動を行ってきた。また、四季の郷とすばるで積極的に実習生の受け入れを行ってきたが、コロナの感染拡大に伴い昨今の4分の1程度の受け入れ日数で、学生との接点も激減していた。

現在コロナ不況の中で求職者が増えている状況下であったが、障害者領域の情報発信力が低いことによる認知度の低さが原因か、高齢者領域には比較的求職者が集まるものの、障害領域はどの法人も苦戦している状況がうかがわれた。また、福祉サービスを提供する事業所自体が増えていることも、採用環境を厳しくしている要因と考えられる。

現状は、人材派遣や人材紹介の業者からの情報が例年より多く、昨今の求職者の傾向が業者を介したものに移行しつつある。さらには、労働力人口の減少を見据えた外国人材へのアプローチについても、世界的なコロナ感染拡大を受け、全く進まない状態であった。

- (4) 苦情受付・解決担当者会議を通して、サービス提供に関わる苦情の受付を積極的に行う
今年度も、苦情に限らず、要望や意見を広く受付を行ってきた。
苦情受付体制下での受け入れ件数は8件であった。内容的には、利用者から支援員の関
りに関する事、保護者から利用者支援に関する事、保護者から請求ミスに関する指摘
等が主な内容であった。苦情を訴えられた利用者・家族には対応済みであるが、再発防止
への更なる検討は必要な内容ばかりであった。
- (5) 今年度は、送迎中に車両同士の軽微な接触事故が1件発生するなど、事業所外での作業支
援や行事、ドライブ、歩行訓練、送迎の場面等における、非常事態への対応場面があった。
施設・事業所外での作業活動や行事は、原則複数職員体制で、非常連絡用の携帯電話の所持
を徹底した。また、送迎を行う事業所については、送迎ルート別に、利用者の乗り降りの地
点の図や事故等の場合の連絡方法等を記したマニュアルを所持して送迎業務に当たってき
た。今後としては、送迎中の大地震等の災害発生時の対応について、明確なマニュアル作り
が課題である。
- (6) 地域における公益的な取組
コロナ対策として中断している取組みもあるが、大山ファーム・地域交流スペースの貸
し出し、GH・大山町北川沿い道路の除草、あすなろ作業所・有志によるフラダンスサー
クル、各事業所・実習生やボランティアの受け入れ等、これまで実施してきた実績があるも
のの、積極的な発信や展開まで至っていない。今後は、「地域における公益的な取組」の
責務を果たしていけるよう、引き続き模索していきたい。

2. 各事業の利用実績

施設・事業名		年間 開所日数	利用者数× 利用日数	1日平均 利用者数	事業 定員	備 考
四季の郷	施設入所支援	365日	16,994人日	46.6人	50人	
	生活介護	269日	12,244人日	45.6人	49人	
	短期入所	365日	197人日	0.5人	10人	
第一・第二・第三大山荘	共同生活援助	365日	6,120人日	16.8人	17人	
細江あすなろ作業所	生活介護	260日	4,478人日	17.3人	20人	
大山ファーム	就労移行支援	260日	758人日	3.0人	6人	
	就労継続支援B型	260日	5,057人日	19.5人	22人	
アグリッシュ西丘	生活介護	255日	2,055人日	8.1人	12人	5日間コロナ休
	就労継続支援B型	255日	4,969人日	19.5人	20人	5日間コロナ休
事業所合計			52,872人日	(2年度)52,227人日		

2. 法人評議員会の開催

- 第1回 令和3年6月25日(金) 10:00~11:00 於. 四季の郷作業棟
(欠席者) 3名
(議案) 1. 令和2年度事業報告書案の承認
2. 令和2年度収支決算書案の承認
3. 監事監査の認定について
※報告事項

3. 法人理事会の開催

第1回 令和3年6月9日(水) 10:00~11:00 於. 四季の郷作業棟

(欠席者) なし

- (議案) 1. 令和2年度事業報告書案の承認
2. 令和2年度収支決算書案の承認
3. 監事監査の認定について
4. 昴会評議員の選任について
5. 昴会理事・監事の候補者について
6. 昴会評議員選任・解任委員会委員の選任について
7. 令和3年度第1回評議員会の議案について

※報告事項

第2回 令和3年6月25日(金) 14:00~15:00 於. 四季の郷作業棟

(欠席者) なし

- (議案) 1. 昴会理事長の選任について

第3回 令和3年12月24日(金) 14:00~ 於. 四季の郷会議室

(欠席者) なし

- (議案) 1. 西丘町新施設建設予定地の土地の売却について

第4回 令和4年3月30日(水) 14:00~17:00 於. 四季の郷作業棟

(欠席者) 1名

- (議案) 1. 令和3年度第二次補正予算案の審議
2. 令和4年度昴会事業計画案の審議
3. 令和4年度昴会収支予算案の審議
4. 諸規定の改定について

※報告事項

4. 法人監事による内部監査の実施

令和3年6月2日(水)、安富恒理事長、早戸真規理事、伊藤利郎事務局長、袴田章彦前施設長、新村玉美事務員、笹田雅世事務員が同席し、伊藤秀俊監事、落合克能監事による令和1年度・令和2年度決算監査を実施した。

5. 借入金の償還

「第二大山荘」・「第三大山荘」及び「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、令和3年度は以下のように償還を行った。

<第二大山荘・第三大山荘>

令和 3年 9月 利子	11,245 円
令和 4年 3月 元金	3,570,000 円
令和 4年 3月 利子	11,245 円
合 計	3,592,490 円

<大山ファーム>

令和3年 4月 元金	298,000 円
元金合計(×12)	3,576,000 円 ①
令和3年4月~4年3月利子	41,430 円 ②
合 計(①+②)	3,617,430 円

6. 各施設・事業所の事業報告

四季の郷

1. 四季の郷の支援目標

今年度も、『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

2. 利用者の状況

年度途中に介護保険施設に移行1名、病死1名の計2名の退所者があった。入所は計4名で、児童施設からの入所移行や精神病院からの退院、在宅からの受け入れであった。男性の比率が上がり、平均年齢が少し下がった。

また、平均障害支援区分については、入退所が見られたものの、前年度の同じ状況であった。

利用者の年齢構成 (単位：名／施設入所支援利用者49名中・R3.3.31現在)

	18歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	計
男性	2	3	10	7	4	2	28
女性	3	1	2	5	6	4	21
最高齢 84歳・最若齢 18歳／平均年齢 51.3歳							

利用者の障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性				4	12	12	28
女性				4	7	10	21
平均障害支援区分 5.3							

3. 具体的な取り組み

(1) 支援体制

●生活支援体制

今年度より、支援体制を生活支援部／日中活動支援部の2部門に分け、それぞれにリーダーを立てることで、きめ細やかな支援体制を実施してきた。

また、重点支援目標として『日中活動支援の充実』『権利擁護の意識向上』を掲げ、憩い棟活動や個別リハビリ活動を通じた(高齢利用者に対する)活動機会の確保や、QOL委員会や外部講師による権利擁護研修などを実施してきた。

障がいの重度化・多様化に対応する形で、後期より多目的ホールから玄関前にかけて、時間を限定して把握職員を配置し、安全面の確保や利用者の要望に対応してきた。

●会議

A. 職員全体会議

半年に1回(4月・10月)開催。全職員出席。事務や医務、栄養の各部署からの連絡事項と共に、施設全般の方向性の確認、事業計画及び支援体制の確認、新型コロナウイルス感染予防等の確認等を行った。

B. 生活支援会議、男女別モニタリング会議

今年度も男女別と男女合同での2つの形で実施してきた。今年度は特に生活支援に特化した議題について、情報共有や事例検討を行った。また、モニタリング会議では、利用者理解を深める取り組みとして、事例検討やライフストーリーの取り組みを実施してきた。毎回、会議資料を工夫して、伝わりやすく共有しやすい会議の実施に努めてきた。

C. 給食会議

毎月1回開催した。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

D. リーダー会議

毎月1回開催した。施設長、サービス管理責任者・各リーダーが出席した。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。

E. ケース検討会議

特定の利用者への支援や事故等の状態を見て、必要に応じ、会議を実施してきた。

F. 日中活動支援会議

隔月で実施した。サービス管理責任者・日中活動リーダー・支援員が出席した。日中活動（課業・余暇・行事）に関する実施状況の把握、課題等の具体的な検討・調整を行った。

●委員会

A. QOL向上委員会

今年度も、サービス管理責任者、リーダーを含め5名の職員での『QOL向上委員会』を組織し、委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

- ・職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施
…今年度は『権利擁護』をテーマとして、QOL委員会主催の園内研修会の実施・関わり方（言葉遣い、不適切な関わりを助長する支援環境の改善）の振り返り・身だしなみ強化月間などの取り組みを実施してきた。また、利用者理解を深めることを目的として、ライフヒストリーワーク（利用者のご自宅に訪問し、保護者から成育歴や幼少期のエピソードを窺い、資料として取りまとめる）を行い、職員間で情報を共有できたことは、利用者への関心が高まり新たな視点で支援を行うことに繋がった。

- ・利用者の意思決定への支援・・・利用者自治会の運営

…利用者自治会の実施

今年度も、利用者から選ばれた会長を中心に役員その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。

『セレクトドリンク』、『セレクトふりかけ』、『入浴剤』、『行事のメニュー』等、利用者の生活の中に少しでも自分で選択を行う機会を持てるように、また、選択肢の決め方も、自分の意思が確認できるように雑誌や写真、絵、実物を使ったイメージ出しを行うなど、工夫を行ってきた。自分たちの決めたことが実現することで、生活意欲の向上につながっているように感じた。

また、健康面の課題から、おやつの日（行事）/誕生会ケーキの提供回数を減らさざるを得ない状況があった際には、臨時の利用者自治会総会を開催し、視覚的なツールや簡易な言葉を用いた説明を行い、利用者の理解と同意を得るよう努めてきた。

- ・虐待防止委員会の機能として、身体拘束モニタリング・不適切ケアについての意見交換を行った。

B. 危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での前月の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析を行うと共に再発防止策の検討を行った。必要な場合には、主任者会議やケア会議につなげ、再発防止策の具体的な検討や周知を行ってきた。

(2) 日中課業活動の支援

今年度は、利用者の高齢化・重度化という課題へのアプローチとして、後期（10月）よりリハビリ活動に重点を置いた新課業体制に移行した。具体的には、憩い棟活動や個別リハビリ活動を通して、B棟利用者の活動機会を確保することや、全体の活動機会をより平均化する

るために活動単位（グループ）を大きく編成し直すなどの取り組みを行った。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

介護度の高まりや夏場の異常高温もあり、今年度も毎日実施はできなかったが、週案に沿って安定的に実施してきた。また、希望者にはあんま師による関節可動域維持のための施術を取り入れた。以下が活動グループ。

●作業系活動

・ペットボトルキャップ仕分け作業 ・バリ取り作業 ・フック作業 ・リサイクル活動

●歩行系

・施設外周歩行 ・公園散歩（ドライブ散歩）

●リハビリ系

・個別リハビリ活動 ・憩い棟活動 ・訪問マッサージ

B. 休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

●音楽クラブ

カラオケやリトミック、季節に合った歌を歌ったりしてきた。

●競技クラブ

コロナ感染拡大のため『フライングディスク競技大会』や『県知協オレンジマラソン大会』がリモート開催となり、大会参加を見送った。

●絵画クラブ

外部より絵画の講師を招き、愛護ギャラリー展出展の為の作品づくりを行った。利用者1名の作品が奨励賞を受賞することができた。

●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

●家庭科クラブ

調理やおやつ作りを行った。

(3) 行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A. 全体行事

●春の親子遠足・・・5月21日（金）

コロナ感染予防対策のため、外出はせずに施設内でのイベント（謎解きゲーム）や特別食（お弁当）を楽しんだ。職員も一緒に楽しみ、盛り上げるなど、雰囲気づくりに努めた。

●夏祭り・・・8月23日（月）

コロナ感染拡大のため、夏祭りの雰囲気（盆踊り、夏祭りに因んだゲーム）はそのままに、利用者・職員のみで小規模に実施した。恒例の花火も実施した。

●秋祭り・・・10月27日（水）

コロナ感染拡大のため、保護者会バザーや外部団体の出店や催し物は中止し、利用者・職員のみで実施した。今年度は、あすなろ作業所によるフラダンスの披露の他、スライドショーを通して30周年を振り返る機会にもなった。

●クリスマス会・・・12月21日（火）

コロナ感染拡大のため、利用者・職員のみで、パーティ食の喫食を中心に実施した。恒例のプレゼントは、サンタクロースがA棟・B棟に出向き、密を避けるように配慮しながら実施した。

B. グループ活動

コロナ感染拡大のため、今年度の実施は見合わせるようになった。

C. 誕生会・季節行事

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を取り入れていきたいという理由から、お花見や七夕、新年会、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。また、新年会では『おやつの日』イベントに合わせて『お年賀』の提供を行い、好評を得た。

D. その他の行事

映画会やミュージカル、作品展やスポーツ大会等のイベントは、リモート開催等の対応となった。遠信映画祭のイベントは、代わりにDVD『裸の王様』が配布された為、四季の郷で映写会を実施するなど、コロナ禍にあっての楽しみ方の創出という点で工夫して行ってきた。

(4) 健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。そのために支援員や栄養士との連携を行った。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきた。また、年2回の健康診断や年1回の歯科検診で発見された糖尿病や高血圧、心疾患、虫歯、歯槽膿漏等の病気・症状に対しては早めの通院を心掛け、地域のかかりつけ医と連携しながら検査・治療を行いました。病状によっては紹介にて病院へつなげていただいたり、緊急を要する場合には救急外来を受診して対応を行った。

今年度も引き続き、利用者・職員が新型コロナウイルスに感染しないように、また、感染の早期発見ができるように、検温をはじめ利用者の体調面の観察等を強化するとともに、館内消毒の時間を設定するなど、全職員で感染予防対策に努めてきた。また、新型コロナウイルスワクチンについても計3回の接種を東山診療所の協力を得て実施し、利用者・職員共にコロナ感染(クラスター)は発生しなかった。

●栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他糖尿対応のカロリー指定、食欲不振や偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用してきた。年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下(ペースト)食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきている。また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けている。献立作成時は旬の食材の取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食を提供してきた。

震災時への対応としては、6日分の非常食と飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄している。施設利用者にとって、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

※食事提供の状況 (2022.4 現在)

盛り付け量	主 食	カロリー	男	女	合計
極々小	60 g	1450kcal	0	0	0
極 小	100g	1550kcal	0	7	7
小	120g	1650kcal	6	9	15
中	150g	1750kcal	6	3	9
大	200g	1950kcal	7	2	9
特大	250g	2150kcal	7	1	8
超特大	300 g	2350kcal	1	0	1
合 計			27	22	49

種 類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	1	3	4
	コンニャクライス	0	2	2
	低脂肪牛乳	0	0	0
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	極刻み食	1	4	5
	刻み食	13	8	21
栄養補助食品	一口大	1	0	1
	嚥下ミキサー食	0	0	0
	微量栄養素補助食品	0	1	1
	栄養強化食品	3	2	5

(5) 防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。訓練実施後は、参加者にチェックシートの記入をしてもらい、その訓練ごとに振り返りを行ってきた。

また、引き続きコロナ感染予防のため、消防隊・救急隊による救命講習会は見合わせ、福祉避難所の設営訓練(感染対策も踏まえ)を行った。

実施月日	訓練実施内容
4月13日	夜間火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
5月11日	土日早朝火災を想定しての避難訓練
6月14日	平日日中の大規模地震を想定しての避難訓練、非常食炊き出し訓練
7月6日	大雨による河川氾濫の避難訓練、停電訓練
8月13日	平日日中火災を想定しての避難訓練
9月8日	平日夜間火災を想定しての避難訓練、安否コールを使用した送受信訓練
10月4日	休日日中火災を想定しての避難訓練、非常食炊き出し訓練、
11月5日	平日日中の大規模地震を想定しての避難訓練
12月27日	平日日中火災を想定しての避難訓練（抜き打ち）
1月28日	夜間帯の火災を想定しての避難訓練、消火器使用訓練
2月9日	平日日中火災を想定しての避難訓練、（抜き打ち）
3月15日	防災講習会「福祉避難所の設営訓練」

(6) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①四季の郷保護者会の事務局機能

保護者会との橋渡しを行ってきたが、昨年度に引き続き今年度も全体活動はすべて中止となったため、保護者会役員会への出席が主な活動であった。

②行事ボランティアの募集・受け入れ

コロナ感染拡大のため、行事も利用者・職員のみで実施し、ボランティアの受け入れは行わなかった。

③実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生(保育実習・四季、ソーシャルワーク実習・すばる)の受け入れを行ってきた。しかし、実習予定期間に新型コロナ流行に伴いまん延防止等重点措置が適用されるなど、実習生の受け入れが困難な状況があった。

※実習生受け入れ実績 (令和3年4月～令和4年3月/実習受け入れ順)

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
浜松学院大学 短期大学部	保育実習	7月5日～7月18日	12	2
浜松学院大学	保育実習	コロナ感染拡大のため 延期後に中止	0	2
実習受け入れのべ日数			24日	
実習受け入れのべ人数				2名

(7) 短期入所

新型コロナ感染拡大による受け入れの中止や利用者の利用控え、またこれまでSS利用してきた利用者2名が入所したこともあり、昨年度に引き続き利用受け入れが激減した状態であった。他にも、新規にオープンしたGHで短期入所を併設している事業所が増えたことで、身近に利用できる選択肢が広がっている環境が整いつつある。

(8) 日中一時支援事業

今年度の受け入れについても、浜松市と委託契約を結び事業を行ってきた。浜松市は西区、北区、中区、南区からの利用が見られた。

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

●園内研修

日付	研修内容	参加者
5月14日	「ピア・スーパービジョン」(施設長・サビ管・支援員)	5名
6月11日	「自閉症の理解」(施設長・サビ管・支援員) ※外部講師 ルピロ内山所長	6名
7月16日	「人権は一人に一つの宝物」(施設長・サビ管・支援員)	19名
7月20日	「リスクマネジメント」(施設長・サビ管・支援員)	5名
8月18日	「ピア・スーパービジョン」(サビ管・支援員)	3名
9月14日	「ピア・スーパービジョン」(サビ管・支援員)	4名
10月29日	「自閉症の理解」(サビ管・支援員) ※外部講師 ルピロ内山所長	7名
11月1日	権利擁護研修「知的がいのある人の支援の前提になるもの」～利用者を「知ろうとする」こと～施設長・サビ管・支援員・栄養士 ※外部講師 聖隷クリストファー大学 川向先生	15名
11月25日	「ピア・スーパービジョン」(施設長、サビ管・支援員)	6名
1月12日	「嘔吐物・汚物の処理実践研修」(サビ管理・支援員)	4名
1月12日	太田ステージ評価とLDT-Rの使い方(サビ管理・支援員)	4名

1月24日	「リスク分析」(サビ管理・支援員)	7名
3月11日	虐待予防研修「施設における不適切ケアを再考する」(施設長・サビ管・支援員・栄養士) ※外部講師 聖隷クリストファー大学 落合先生	18名

●外部研修

日付	研修内容	参加者
6月2日	Zoom研修「人で不足を正しく分析しよう」(サビ管)	1名
10月21日	Zoom研修「令和3年度県知協施設部会職員研究集会」 (サビ管、支援員)	2名
10月23・24日	Zoom研修「令和3年度意思決定支援と虐待防止に関する研究会」(副主任)	1名
10月28日、 11月16・17日	「令和3年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者研修」(支援員)	1名
11月5日	Zoom研修「業務定着化を図る「教え方」講座」(主任)	1名
2月4日	Zoom研修「強度行動障がい者支援要請研修 基礎研修」(副主任)	1名
2月24日	Zoom研修「利用者の身体確認のポイント講座」(サビ管)	1名
3月3日	Zoom研修「強度行動障がい者支援要請研修 (支援員)	1名

第一・第二・第三大山荘

※令和2年10月1日より、第一大山荘と第二大山荘・第三大山荘を統合し支援を実施してきた。

■第一大山荘

1. 入居者の状況 (令和4年3月31日現在)

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	72	平成14年10月	四季の郷(生活介護)
2	Bさん	男	64	平成14年10月	大山ファーム(就労継続B型)
3	Cさん	男	70	平成21年10月	アグリッシュ西丘(就労継続B型)(R4、1、31退所)
4	Dさん	女	64	平成22年5月	パルステック工業株式会社就職
5	Eさん	女	60	平成31年4月	アグリッシュ西丘(就労継続B型)

2. 支援の状況

- ・年々、入居者の高齢化に伴う介護度の高まりや通院等の機会の増加が見られている。特に、持病である高血圧や糖尿病等の生活習慣病の罹患や悪化が見られている。また、情緒面でも不安定な様子が見られることも増えている。協力医療機関への通院を行い、医師より指導や投薬を受けているが、本人の病気理解や現況理解が難しく、職員の説明に理解ができなかったり、意味は分かっているにもかかわらず応じることができない姿も見られた。健康管理を本人と如何に進めて行くかが課題である。
- ・生活の主体者は利用者であることを意識した支援を行った。ただ、グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、情報提供と利用者の自己選択・自己決定を尊重し、そして本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切にされた支援を行った。
- ・日常生活においては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、四季の郷、就労先の会社との連絡調整を行い、連携・

協力して支援を行った。土日は、新型コロナウイルスの影響で、法人の行事や地域の行事、催し物が中止となり、地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができることは難しかった。ただ、その中でも、感染予防を行いながら、最低限の買い物や美容院、床屋に行くことはできた。

- ・「事故」については、夕方から外出をして、21時まで帰宅せず、警察のお世話になることがあった。それ以外に、転倒する利用者もいたが、大事には至っていない。60歳以上の年齢が、ほとんどなり、高齢化が見え始めている。大きな怪我に繋がらないようにしていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染予防については、マスクの着用や手洗い、消毒、指導を繰り返し行った。外出時の注意を何度も伝え、本人自身が注意してもらえるように取り組みを行った。どれだけの理解が得られたのかは不明だが、入居者なりに注意をしてくれている姿も見られた。
- ・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、日帰り帰宅等の機会を通して連携を保ってきた。
- ・地域の方々との関わりについては、新型コロナウイルスの影響で、自治会に入会したものの、地域行事等が中止となり、参加することができなかった。地域の方から、見かけた時には声を掛けて頂くなど、地域住民の一人として接し、気に掛けて頂いていることを感じた。
- ・スキルアップについても、新型コロナウイルスの影響で中止になり、法人の職員研修や外部研修に参加することが出来なかった。

3. 支援体制

- ・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員1名）、生活支援員、補職職員が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整などを行った。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘職員、相談支援事業所職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行った。

4. 健康支援

- ・毎朝の検温と血圧測定、年2回の健康診断を通して健康管理に努めた。また、疾患のある入居者のために日常的な服薬管理、通院支援を継続した。また、日中活動先での歯科検診や年2回の健康診断の結果を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

5. 行事

- ・第一大山荘全体での行事は計画していない。新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になったり、規模を縮小しての行事となり、参加することは出来なかった。

6. 会議・研修

- ・第一大山荘の会議は年3回実施した。研修は、第二大山荘・第三大山荘の研修に参加する形で実施してきた。

7. 防災の取り組み

- ・防災訓練実施状況は以下の通り。

5月25日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
9月30日	夜間の火災を想定しての避難訓練
11月16日	南海トラフと大地震を想定しての避難訓練

■第二大山荘・第三大山荘

1. 入居者の状況（令和4年3月31日現在）

第二大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	74	平成21年9月	引佐草の根作業所
2	Bさん	男	70	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Cさん	男	58	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Dさん	男	56	平成21年9月	大山ファーム
5	Eさん	男	47	平成21年9月	細江あすなろ作業所
6	Fさん	男	75	平成24年3月	アグリッシュ西丘

第三大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Gさん	女	76	平成21年9月	アグリッシュ西丘
2	Hさん	女	56	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Iさん	女	55	平成28年4月	大山ファーム
4	Jさん	女	71	平成29年6月	アグリッシュ西丘
5	Kさん	女	71	平成27年6月	細江あすなろ作業所
6	Lさん	女	49	令和2年4月	大山ファーム

2. 支援の状況

- ・今年度も法人昴会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、意思決定支援、そのための情報提供を大切にされた支援を行った。
- ・日常生活においては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、草の根作業所、あすなろ作業所、相談支援事業所との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。土日は、新型コロナウイルスの影響で、法人の行事や地域の行事、催し物が中止となり、地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができることは難しかった。ただ、その中でも、感染予防を行いながら、最低限の買い物や美容院、床屋に行くことはできた。
- ・「事故」については、転倒や小さな傷が見られる場合が大きな怪我には、繋がっていない。第二大山荘・第三大山荘の利用者の半数が65歳以上と高齢化が進んでいる。引き続き、転倒等の事故の発生予防に努めていきたいと思う。
- ・新型コロナウイルス感染予防については、第一大山荘同様にマスクの着用や手洗い、消毒、指導を繰り返し行ってきたが、長時間マスクをつけることができない利用者も見られた。
- ・家族（成年後見人等）とは、年2回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。

3. 支援体制

- ・管理者、生活支援員、世話人が日常的生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である大山ファーム職員、アグリッシュ西丘職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、相談支援事業

所相談員、四季の郷看護師・栄養士等とも連携・協力して支援を行った。

- ・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。

3. 行事

- ・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることができる外出ができる時には行った。新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になったり、規模を縮小しての行事となり、参加することは出来なかった。

主な行事は以下の通り。

花火、初詣、誕生会、女性外出

4. 健康支援

- ・毎朝の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科等の通院に加え、年2回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、要治療の入居者の受診支援を行った。

5. 防災の取り組み

- ・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。

・防災訓練実施状況

4月 30日	消防用設備の設置場所確認及び操作要領
6月 25日	夜間の火災を想定した避難訓練
9月 19日	南海トラフ大規模地震に関する警戒宣言が発令されたことを想定しての避難訓練
11月 7日	夜間、宿直職員ひとりでの地震を想定しての避難訓練

6. 会議・研修

- ・月1回、もしくは、2ヶ月に1回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。
- ・研修については、新型コロナウイルス感染の影響があり、法人単位の研修会等が中止となり、参加することはなかった。職員会議内の時間を使った「感染予防」、「虐待防止」、「事故防止」等をテーマにした内部研修を実施した。
- ・外部研修については、新型コロナウイルス感染予防をした上で、少人数の研修に参加をした。

7月 12日	精神障害を理解するための研修会 (2名)
3月 6日	施設職員研修会 (2名)

細江あすなろ作業所

1. 利用状況

*利用者の状況 定員 20名 利用者 21名 (男性 11名 / 女性 10名)

年齢性別	知的障害が主	
	男性 (名)	女性 (名)
70代	0	2
60代	3	1
50代	2	1
40代	2	2
30代	1	2
20代	3	2
10代	0	0
計	11	10

※平均年齢 42.8歳

障害支援区分	人数 (名)	利用者本人の住居状況	人数 (名)
3	3	自宅	12
4	8	GH 大山荘	5
5	8	四季の郷	3
6	2	他の GH	1
計	21	計	21

※平均区分 4.4

2. 作業状況

開所日数 260日

- ①下請作業
 - ・ワイズ㊦ (プラスチック部品の仕分け)
 - ・エステック (自動車部品の組み付け)
- ②自主製品
 - ・あすなろせっけん
 - ・ぼかし
 - ・ビーズアクセサリー
 - ・縫製用品
- ③自主製品の販売

販売方法

 - ・作業所直売
 - ・「作業所連合会わ」より紹介
 - ・委託販売
(細江町社協・三ヶ日町社協・奥浜名湖商工会・咲夢茶店、とんきい・竜ヶ岩洞)
- ④その他
 - ・農作業
 - ・アルミ缶回収

3. 活動状況

(1) 利用者の意思及び人格を尊重

利用者個々にアセスメントを行い、利用者が安全で楽しい日中活動が送れる場の提供に努めた。感染症対策として職員による企画・ワークショップを実施。(単調になりがちな日中活動に配慮した。)

(2) 利用者の自立した日常生活または社会生活を営む能力の向上。

特に、服装に関して季節、清潔に重点をおき、家庭との連絡を密にし、家庭事情で

把握が困難な方については、許可を得て日常生活品の購入や作業所内での衣類の管理支援をおこなった。

- (3) 利用者の食事場を快適な時間となるように支援
- ・食事前の手洗いに関し清潔を意識する支援を行った。泡状のポンプを使用し除菌効果が高まるように手洗いの支援を行った。
 - ・食事の場面では、支援員が見守り食事における咀嚼、消化能力の向上を意識した声掛けを行った。
 - ・食後の歯磨き支援は、歯間ブラシ・糸ようじ・タフト等のグッズを使用して出来るかぎりの口腔ケアに努めた。
 - ・歯科の定期受診定着につながるよう浜松市障がい者施設歯科検診事業を実施した
- (4) 筋力の衰えを防ぎ、体力の維持を目指す。
- ・毎日のラジオ体操、ロコトレ体操を行い、個々のペースにあった歩行を行った。
 - ・指導者を外部から招き、機能訓練を含めた体操を行った。
 - ・2名に関しては、有料ではあるが専門家によるリラクゼーションを行った。
 - ・不定期ではあるが理学療法士による有効な個別のストレッチについてアドバイスを受けた
- (5) 生産活動を通じて、社会の一員であるという自覚の持てる支援を行う。
- ・高齢化、重度化に伴い下請作業では対応できない部分が増えたので、自立課題を提供し作業に必要な態度、技術、集中力、知識、協調性などの習得を目指した。
 - ・ビーズアクセサリを女性利用者中心に作成して販売することができた。
 - ・農作業も2年目となり、日課として定着し、畑に行くことを楽しみにしている利用者も増えた
- (6) 表現活動、行事イベントの体験から個人の生きがい向上に努めた。
- ・音楽を利用した表現活動に力を入れ、4人の講師によるミュージックセラピーを実施した
 - ・みをつくし文化センターホールを借りて日中活動の発表を「あすなろ文化祭」として行った。同時に日中活動で作成した絵画等の作品を展示した（関係者のみ参加）
 - ・3月には第3回目の「細江 DE 音楽祭」を計画したが、コロナウイルス対策のため外に向けての発表は断念。利用者のご家族のみで開催した。

4. 行事

- 4月 健康診断
- 6月 2町ボーリング大会（中止）
日帰り旅行（中止）
- 9月 防災訓練
- 10月 ライブによる永年勤続表彰・表彰式
- 11月 あすなろ文化祭・あすなろ作品展
ほのぼのマーケット（中止）
- 12月 地区防災訓練（職員のみ参加）
防災訓練
クリスマス会
忘年会（食楽工房さんよりテイクアウト）
- 1月 井伊谷宮に初詣（小グループに分かれて実施）
- 2月 地区作品展（細江町7区防災センター）
- 3月 Zoom 元気ライブ出演
細江 de 音楽祭
防災訓練

その他の行事・プログラム

- 月 1 回 誕生会
 - 音楽療法士による音楽会
 - 音楽療法士による音と遊ぶ
 - アコーディオン奏者による歌う会
 - インストラクターによるレクダンス
 - 2名の講師による軽体操・健康セラピー
- 年 3 回 医師による健康相談

4. 職員研修

- ・西部地区職員研修
- ・施設長研修
- ・法人研修 障害者虐待防止、権利擁護研修
- ・強度行動障害 基礎研修 実践研修
- ・リンパ体操
- ・自閉症スペクトラムの理解と支援

5. その他

※まん延防止対策期間中は、通常以上に感染防止に努めた。利用者 1 名・職員 1 名が陽性者となったが、施設内感染拡大は無く数日で通常稼働日に戻すことができた。

※「愛の都市訪問」より、耕運機一式贈呈

大山ファーム

1. 利用者状況

(R4.3.31)

月	在籍者 (名)		1日の平均 出勤者数 (名)		稼働率 (%)		契約者		終了者		契約終了理由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	3	23	2.9	20.0	96.6	95.0	2	3	0	0	
5	3	23	2.9	20.5	96.6	93.2	0	0	0	1	B型→自宅療養
6	3	23	2.7	21.0	90.0	95.4	0	0	0	0	
7	3	23	3.0	21.2	100.0	96.4	0	0	0	0	
8	3	23	2.8	20.8	93.3	94.8	0	0	0	0	
9	3	23	2.7	21.8	90.0	99.3	0	0	0	0	
10	3	24	2.9	22.6	96.6	102.9	0	1	0	0	
11	3	24	2.9	22.6	96.6	102.8	0	0	0	0	
12	3	24	2.3	23.0	76.6	104.9	0	0	0	0	
1	3	24	2.9	21.9	96.6	99.7	0	0	0	1	B型→自宅療養
2	3	25	2.4	22.9	80.0	104.0	0	1	0	0	
3	4	24	3.1	22.8	77.5	103.7	1	0	1	0	移行→他施設
平均			2.9	21.9	91.3	99.3	3	5	1	2	

(男性：15人平均年齢 33.0 歳／女性：8人平均年齢 42.0 歳)

(1) 利用定員

○就労移行支援 (6 名)・就労継続 B 型支援 (22 名)

(2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…6 名 (就労移行支援 1 名・就労継続支援 B 型 2 名)

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、就労移行支援・就労継続支援 B 型の募集を行った。

(3) 退所者内訳

○他法人事業所…1名、自宅療養…2名（就労移行支援1名・就労継続支援B型2名）

就労移行支援は2年間という限られた期間で一般就労へ向けて支援を行った。1名の方は就労継続支援A型希望したが、大山ファームにないため、A型事業所がある法人へ移行された。

2. 支援の状況

(1) 作業収入割合

●令和3年度総収入 9,195,436円（令和2年度総収入 10,646,417円）

(2) 支払工賃

●工賃総額 5,652,050円（令和元年度工賃総額/5,805,000円）

●月一人あたりの平均工賃 就労継続支援B型 18,457円
（令和2年度平均工賃） 就労継続支援B型 20,071円

(3) 支払工賃

他の事業所との差別化を行うため、就労移行支援・就労継続支援B型事業を行っている大山ファームは、一般就労及び平均工賃の向上（平均工賃20,000円以上）を目標に活動を行ってきた。また、ミニトマトの他に新たな自主製品として、玉ねぎの栽培を行った。

(4) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(有)船越造園	除草作業	不定期
法林寺	除草・清掃作業	月に1回
めせあファーム	玉ねぎの収穫・除草等	
るびなすの畑	野菜の収穫・除草等	
優先調達	除草作業・維持管理作業	重要文化財中村家住宅、 新都田サービスセンター 舞坂宿脇本陣
社会就労センター	駐車場管理	スペース 24
興福寺	除草・清掃作業	

就労に必要なスキル（挨拶やマナー）を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。地域とのつながりの中で小学校の除草作業や公共施設の清掃作業など活動の場を広げることができた。

(5) 下請け作業

委託先	作業内容	備考
(株)TG	自動車部品の組み付け	
(株)ワコー	自動車部品の組み付け	
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	

今年度は、新型コロナウイルスなどの影響もあり、下請け作業量の減少が見られた。それに伴い作業収入も減少した。

(6) 自主製品

販売・委託販売	販売内容・取引先	備考
ミニトマト（小売販売）	無人販売所	ふあ〜まるしえ
（委託販売）	J Aとぴあファーマーズマー ケット	三方原店・浜北店
	ヴィラ東山苑	高齢者施設
染色、縫製（小売販売）	無人販売所	ふあ〜まるしえ

栽培作物（ミニトマト等）

ミニトマトについては7月中旬に定植をした。品種としては千果とアイコを選定した。

JAのファーマーズマーケットへ出荷した。収穫量によっては浜松市内にある4つの店舗に出荷することで収益を確保することができた。

染色・縫製作業として小物（マスクやてぬぐい）や雑貨を製作した。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断を大山ファームで実施した。また、11月には歯科検診を実施した。

感染症対策として通所時の検温や換気、消毒を徹底した。また、利用者にもマスクの着用や手洗い等の必要性を継続して伝えたことで、検温や換気、消毒、マスク着用等が定着し、感染予防意識が高まった。

今年度も職員、利用者ともに新型コロナウイルス・インフルエンザの感染は無かった。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。(5月「土砂災害訓練」(9月「総合防災訓練」11月「福祉施設防災訓練」)を実施した。5月の土砂災害訓練では、第一次避難場所である和地小学校まで、徒歩での避難訓練を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事

1月4日、「新年会・新成人のお祝い会」を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も「地域交流まつり」を中止することとなった。

6. 会議・研修

調整会議（委託作業等に関わる調整事項…1回/週）支援員会議（利用者支援に関わる内容…1回/月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2回/年）を行った。

内部研修は「インターネット販売の知識」「精神障害（統合失調症）の知識」「ハラスメントについて」を行った。

外部研修については新型コロナウイルスの影響があり、必要な場合を除いて参加を自粛した。

アグリッショ西丘

1. 利用者状況

	在籍者数		一日平均 通所者数		稼働率 %		新規 契約者		退所者		退所理由
	B型	生介	B型	生介	B型	生介	B型	生介	B型	生介	
4	28	8	20	6.2	99	52		1			
5	28	8	19	6.2	96	52			1		介護保険移行
6	29	10	21	8	104	65					
7	29	10	20	7.4	101	62			1	1	B型移行・退職
8	30	11	20	7.4	98	62		2			
9	29	11	19	7.6	101	63		2	1	1	体調不良
10	29	13	20	10	101	81		1			
11	27	13	20	9.3	100	78					
12	28	13	19	8.6	97	72					
1	28	14	18	8.7	91	73		1	2	1	他界・入院・退職
2	29	15	18	8.7	89	73	1				
3	28	14	19	9.1	94	76	2	2			
平均	28.5	12	19.4	8.1	96	67					

利用定員 就労継続B型支援（20名）

【新規利用者内訳】

- ・特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえており、毎年入所に繋がっている。今年度はB型に2名が入所。
- ・地域からの利用…在宅9名／グループホームから1名／当事業所（生介→B型）移行1名
特別支援学校や相談支援事業所等と連携することで新規利用者の確保に努めた。地域からの利用者の特徴としては過去に他事業所を利用していた方が当事業所へ移行されてくるケースが多くあった。事業所の評判を聞き利用に繋がったケースが増えている。

利用定員 生活介護（12名）

【新規利用者内訳】

- ・A型から1名、B型から1名、生活介護から2名が入所された。いずれも他事業所からの移動。相談員や地域との連携により利用者の数を着実に増やすことができている。来年度には新規利用者2名の入所も決定しており、稼働率は96%になる見込み。

2. 支援の状況

【就労継続支援B型】

(1) 令和3年度作業総収入 5,199,936円

利用者に支払う工賃を上げるため、単価が高い作業を探した。単価が高い作業は高度なものが多いが、作業を細分化することでさまざまな障害特性をかかえる利用者が多数参加することができ、協力して一つの物を作り上げることができ達成感も感じられることができていた。コロナ禍ということもあり作業の搬入量にも波が出ている。この対策として多くの企業と委託契約を行い搬入量の調整を行う事で毎日作業を提供できる体制を整えた。これによって大幅な作業収益向上と工賃を増やすことに成功した。今後は現状維持もしくは向上を目標に取り組んでいきたい。

※支払工賃の状況

工賃総額 2,910,000円（月一人あたりの平均工賃 1,1239円）

(2) 作業状況

●施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
パセリ農家	パセリ片付け	
宮本肥料店	堆肥の袋詰め	
カシマばら園芸	バラの調整（下葉取り）	
ハンティントンガーデン	シアスタイルの環境整備	
樽井農園	摘花、摘蕾、花桃選定、石拾い	
徳増農園	ニラの肥料撒き、定植、草取り	

●下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株) エイテック	自動車部品等組み立て	
(有) 藤野工業	自動車部品組み立て	
(株) 大五運送	商品梱包等	
宮本農園	ネギの皮むき	
TG	自動車部品組み立て	

●農作業

事業所での栽培（LED水耕）

LED水耕は、パクチー、ワサビ菜、ルッコラを中心に、他にもバジル、大葉、グリーンレタス、サニーレタスの栽培を実施してきた。パクチー、ワサビ菜は辻上商店と秀商が全て買い

取りとなっており、生産分＝納品により売り上げに繋がっている。

栽培した農作物は、以下のような場で販売をしてきた。

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	各行事	
委託販売	J Aとびあファーマーズマーケット ファーマルシェ アグリッシュ、四季の郷にて販売 るびなすの森	三方原店

【生活介護】

(1) 活動・作業状況

事業所の特色として活動と作業を実施しており、作業については収益が生まれるものを提供し、主に自動車部品の組立や野菜、果物の袋詰めを行い、毎月支給金（工賃）として通所されている利用者に支払っている。工賃を得ることで社会参加を実感していただくとともに余暇の充実にも繋がっている。活動は機能訓練やレクリエーションを利用者の障害特性に合わせて組み立てている。項目としてはボーリング、フリスビー、ボルトナット締め、フェルトボール色分け、パズル、体操、散歩、ドライブ、買い物訓練、調理実習、音楽療法などさまざまある。今後は野菜作りなどにも挑戦していく予定。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断を大山ファームで実施した。

感染症対策として毎日通所時の検温や換気の調整を行った。また、利用者に手洗い・消毒・ソーシャルディスタンス等の必要性を伝えると共に継続的に意識できるようにポスターを掲示した。食事も二部制にして利用者同士の接点を減らすように調整を図った。しかし、2月に利用者が新型コロナウイルスに感染され一定期間開所できなかった。障害特性によりマスクをつけられない方や外してしまう方がおり、継続して声掛けや介助を行ったが感染力も強く防ぐことができなかった。今後も感染症対策はしっかり行い感染防止に努め、利用者の皆様が安心・安全に利用できるように取り組んできたい。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。（5月「不審者対応」11月「福祉施設防災訓練」1月「事業所内防災訓練」）また、定期的に帛会通所事業所が集まり、防災・危機管理について情報交換を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事実施状況

1月4日（金）新年会

※新型コロナウイルスの影響により行事は全て中止。新年会のみ感染対策を万全に行ったうえで実施した。

6. 研修

(1) 園内研修

回	月日	内 容	参加者
1	8/6 17:00～	精神障がい者の理解と対応 講師：基幹相談支援センター 岸 様	管理者・サビ 管・支援員8名

	18:30		
2	11/26 17:00～ 18:30	個別支援計画書作成・ケース記録のポイントやコツ 講師：浜松協働学舎 美和 様	管理者・サビ 管・支援員 8名
3	2/17 10:00～ 12:00	今年度の振り返り・来年度に向けての計画や目標設定	管理者・サビ 管・支援員 8名

(2) 外部研修

回	月日	内 容	参加者
1	9/3 9:30～16:30	食品衛生責任者養成研修	支援員 1名
2	10/1 9:30～16:30	食品衛生責任者養成研修	支援員 1名

すばる

1. 事業状況

今年度も、175件(令和4年3月31日現在契約数)の施設・事業所入所・通所利用者、在宅サービスの利用者とその家族、地域住民からの相談支援を、浜松市障がい者基幹相談支援センター、各区の障がい者相談支援センター(浜松市委託相談支援事業所)、市内及び湖西市の障害福祉サービス事業所、医療機関、学校、成年後見関連事業所、地域包括支援センター、児童相談所、ハローワーク、民生委員、区役所社会福祉課等と連携しながら行ってきた。西区自立支援連絡会や相談支援専門員連絡会の企画にも参加してきた。

主たる事業は、利用者のニーズに沿った福祉サービス利用につなげる計画作成とモニタリングだが、日々の生活の継続の中にサービス利用があるため、障害や障害福祉以外の制度に関することへの関わり、生活上の悩みへの関わり、家族への関わり、緊急的な関わり等の対応も業務の中の多くを占めていた。障害の理解や利用者の思いの理解に基づく利用者との人間関係の構築や、各関係機関との連携や協働がなければ業務の遂行はできないとあらためて感じた1年でもあった。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大や感染予防のため、時期によっては電話での対応をせざるを得ない状況も多く見られた。また、利用者や家族がコロナ陽性者となったり濃厚接触者となったりした場合の相談支援専門員としての業務の難しさと限界を感じることもあった。

社会福祉士受験資格取得のための大学の実習生の受け入れを行った。

※計画作成とモニタリング実施数 (のべ件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画・モニタリング	66	54	42	46	36	60	47	41	53	43	55	61	604

2. 支援体制

専従の相談支援専門員2名体制で実施した。家族が新型コロナウイルス陽性疑いの対象となったこと等でやむを得ず業務を休まざるを得なかった期間もあり、少人数での事業の難しさも感じた。

3. 研修等

ケースについての関わり方や支援の方向性等については、日頃の業務の合間に随時確認をしてきた。

※研修状況

日付	研修内容	参加者
8月6日	「精神障がいの理解と対応」	1名
10月28日	「静岡 DMAT と福祉避難所」【ZOOM】	1名
11月15日	「地域体制強化支援加算について」【ZOOM】	1名
3月2日	「こどもアセスメントを知ろう」【ZOOM】	1名

4. 実習生の受け入れ

法人内事業所の見学やケアワーク実習の実施、近隣事業所の見学・訪問、在宅利用者宅への訪問の同行及び利用者への直接アプローチ（利用者の事前了解のもと）、アセスメント及びサービス等利用計画案の作成等をプログラムに入れて実施してきた。相談支援としては初めての実習受け入れだったことや新型コロナ感染拡大等による急な実習期間の変更もあり、大学担当者と相談しながら実施した。尚、4年度についても、可能な範囲で受け入れを行っていく予定。

※実習生受け入れ

所属等	目的	実習期間	日数	人数
静岡県立大短大	ソーシャルワーク実習	9月27日～9月29日	12	1
		10月25日～10月30日		
		12月24日～12月28日		
静岡県立大短大	ソーシャルワーク実習	10月4日～10月16日	12	1

事業報告の附属明細書

令和3年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人 昂会